

芥川龍之介：「トロッコ」

良平は工事現場にあるトロッコが気に入り、のりたと思っています。

私はトロッコを知りませんでした。 / はじめて知りました / 調べてみました / 前見たことがありました。

トロッコは、私も乗ってみたい / あまり興味がない / 少し怖い と思いました。

なぜなら だからです。

主人公の良平の、 なところが

共感できました。 / 好きになりました。 / なるほどなと思いました。 / 自分に似ているなと思いました。

でも、 なところが好きになれません。 / 理解できません。 / 友達にはなれないと思いました。

作者の芥川龍之介については、

という印象がありました。 / あまり詳しくありませんでした。 / ○○○○○○くらいしか知りませんでした。

良平はしかられたのにこりずにトロッコに乗ろうとしています。もし私なら

するだろう / しないうだろう と思いました。

私も良平と同じ好奇心を感じた / 冒険したい気持ちになったことがあります。(そのときの体験や思い出)

今、考えれば だと思いました。

でもそのときは、 だと思いました。 / と感じました。

だから良平の気持ちが、少しだけ / ちょっと / なんとなく / すごく / 自分のことのように わかります。

きつと良平も だと考えた / 思ったのだと思います。

私は小説を読みながら、自分のことのようにドキドキ / やめればいいのに / もっと行けるのに！ /

最後まで行けばいいのに！ / 帰ると言えいいのに と思いました。 / 感じました。 / 考えました。

良平は見知らぬ場所に来て心細く / 心配に / 不安になりました。トロッコにのれた「うれしさ / 楽しさ」よりも、

の方が なのだと思います。

良平が家に帰ってはじめて大声で泣いたのは、

だからだと思います。 / なのではないかと考えました。 / ではないかと感じました。

私も (泣きたかったけど泣けなかったエピソード) のとき、

泣いたことが / 心細くなった / こわくなった ことがあります。

このことがあって、良平は今までよりも

ではないかと思いました。 / 考えました。